

図書館だより 第27号



<図書館特別室で談笑する中華人民共和国哈密市友好都市使節団>

8月5日(日)～8日(水) 入善町使節団として来日していた哈密市(はみし)友好都市使節団(哈密市人民政府副市長・李江氏、哈密市人民政府外事僑務弁公室主任・克然木・阿迪里氏、海南康輝国際旅行社社長・陳国江氏)が本館に来館。シルクロード文庫(高林和子氏からの寄託資料)を見学されました。

目次

平成19年度 富山市立図書館協議会 質疑応答	2
こんな仕事をしています	3
いちおしライブラリー 第15回 「現代美術を楽しもう」	5
岩倉政治文庫の資料 1	7
レファレンスあれこれ	8

平成19年度 富山市立図書館協議会 質疑応答

図書館協議会とは

富山市図書館条例に基づき、図書館の運営に関し、館長の諮問に応じたり、図書館奉仕について館長に意見を述べるため「図書館協議会」が設置されています。

(根拠法令は図書館法 16 条による)

富山市立図書館協議会は、各委員の任期を2年とし、本館から選出された7名、各地域館から選出された6名、公募により選出された2名の計15名の委員で組織されています。



8月22日(木)、市立図書館本館7階の特別室において、平成19年度富山市立図書館協議会が開催され、図書館職員と協議委員13名(欠席2名)によって、図書館運営についての説明や質疑応答が行われました。

まず、図書館側から19年度事業に関する説明と今年度の主要事業についての概要説明が行われたあと、各委員から次のような質問や意見が出されました。

<音訳図書について>

(質問)

視覚障害者には、生まれたときから、という場合もあるが、児童書の音訳テープは作成しているのか。

また、自分も視覚障害者となってから、読書することに困難を感じており、音訳テープには魅力を感じているが、様々なジャンルの本を読みたいと思っているので、どんな本が中心に音訳されるのか教えてください。

(回答)

基本的には利用者から要望された本を、著作権者の許諾を得て音訳化している。その他は、特定の分野に偏ることなく話題の本などを中心に行なっている。

<民間委託について>

(質問)

分館の民間委託は、将来的に15分館とも実施していくのか。

(回答)

今年度は、4分館を実施し、富山市の行政改革大綱に従って、15分館中、10分館の実施を予定している。現時点では、本館と地域館を直営方式で運営し、分

館は、八尾地区の2館を除く旧富山市の分館15館を中央・東部・西部・南部・北部のブロックに分け、各ブロックの中心分館は直営方式で、他は業務の民間委託化を考えている。

<新館建設について>

(質問)

「図書館だより」で、川口市立図書館の先進地視察報告があり、興味深く読ませてもらったが、新図書館の建設について、具体的に聞きたい。

(回答)

総合計画の位置付けでは、23年度までに基本設計を終えることになっているが、まだ移転先は決まっていない。小学校跡地、富山駅周辺等が考えられているが、いずれにせよ、中心市街地整備事業の中で決定されていく。

今年度、図書館では職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、新図書館の使命などについて調査・研究をしている。

<その他>

(提言)

それぞれの地域館で、「ここに行けば、 がそろって

いる」など、個性のある図書館作りを検討してもらいたい。(質問)

(回答)

システムを統合する中で、それぞれの地域館が持っている図書資料が明らかになってきた。八尾図書館の歴史は古く本館でも所蔵していない資料も多い。

山田地区においても新聞記事のスクラップや時代を映し出した地域の写真等が多数残っている。また、大山図書館には山岳関係や有峰関係の資料を多く所蔵する。これらの資料の活用を進めていく中で特徴のある館運営を考えていきたい。

(質問)

現在も、本館ではDVDの貸し出しはできないのか。

(回答)

今年度中に貸し出し出来るよう準備を進めている。

・月曜日の開館を大変喜んでいるが、これは市長の提案か。

・予約者の多い本の貸し出しを1週間にしたらどうか。
・CD付の本のCD紛失について、CDを別扱いにして管理するなど、紛失防止に努めてもらいたい。

(回答)

・月曜日・祝日の開館は市長から提案があり、検討し実施した。

・条例・規則には挙げていないが、予約が多い本については1週間の貸し出しをお願いしている。

・CD紛失の件については、音楽用CDの楽譜や解説、和洋裁の型紙などについても同じことが言え、ご提案の方法も含め検討したい。

こんな仕事をしています！



新図書館を考えるプロジェクトチームについて

現在城址公園の整備計画が進められています。これに伴い図書館の移設がたびたび新聞紙上で話題になっています。しかし、建設までには建設場所や手法の決定、基本構想の策定、基本設計、実施設計など長い道程があります。

設計の基礎になるものが、「基本構想」あるいは「基本計画」ですが、それは「基本構想検討委員会(仮称)」において検討されることになると思われます。しかし、ゼロから基本構想を検討することは難しく、他の図書館の例を見ると、図書館サービスのあり方と建物の基本要件を司書たちが研究し、議論や検討のもとになるものを作成しています。

このため、本年度、図書館職員による「新図書館を考えるプロジェクトチーム」を発足させました。

このプロジェクトチームでは、「21世紀の富山市立図書館」はどうあるべきか、諸々の資料を作成しながら、様々な角度から研究してみたいと思っています。

メンバーは未来の図書館に強い関心を持っている職員たち11人により構成されています。

8月末には夏季休暇を利用して6人のメンバーが、滋賀県内の野洲図書館、愛知川図書館、八日市図書館、能登川図書館、永源寺図書館を見て歩きました。

先進的といわれる図書館や歴史のある魅力的な図書館を観察し、これまで出版された図書館に関する文献を参考にしながら、21世紀の図書館像を考えたいと思います。
(本館 亀沢)

音と映像資料委員会

富山市立図書館では、「音と映像資料(CD・ビデオ・DVDなど)の選書・整理などについて研究し、整理業務及び奉仕業務を円滑にすること」を目的として、音と映像資料委員会を設置しています。

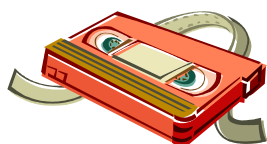
平成18～19年度に、図書館コンピュータシステムを本館のシステムに統合することになりました。その結果、全館の音と映像資料が一元的に検索・運用できるようになります。

これまで、本館および地域館では、各地域の実情にそって、音と映像資料を収集・整理してきました。しかし、この統合により、富山市立図書館のCD・ビデオなどをどの地域館、分館でも貸出・返却できるように収集方針や整理方法、貸出方法の統一を進めていきたいと考えています。

現在、他の先進図書館の例も参考にしながら、収集については、富山市としての統一的な方針を立て、整理の仕様については、貸出がどの館でも同じ仕方ででき、利用される皆様に混乱を与えないよう統一するため、具体的に検討しています。

利用される皆様に、よりご満足いただけるサービスを目指して、最終的には「音と映像資料整理マニュアル」を作成し、業務の改善を図りたいと思います。

(本館・青少年図書室 清川)



分類・目録委員会

図書館が収集した資料を一定の体系のもとに組織化し、書名・著者名・主題などの手がかりから容易に資料が探し出せるようにするのが、分類や目録の役割です。

一定の基準に基づき分類し目録を作成することにより、同じ主題の本が同じ書棚に並び、利用したいと思う目的の資料を迅速に探し出すことができます。

資料や情報を分類法や目録規則により精密に整理し組織化することにより、100万冊、200万冊という大量の蔵書も有効に利用できるようになります。

図書館サービスの基盤ともいえる分類・目録などの図書整理技術について専門的継続的に研究・改善を行い、図書整理業務及び奉仕業務を円滑にすることを目的として、「分類・目録委員会」を設置しています。

富山市立図書館は全館で約90万冊の蔵書を所蔵しており、統一した整理マニュアルのもとに資料整理業務にあたっていますが、時代の変化に伴い変更や修正対応しなければいけない事柄が新たに生じています。たとえば、市町村合併による行政区の分類や、電子媒体に記録された資料の整理などです。

本年度は、「富山県郷土資料分類表」の改訂に伴う対応について検討をすすめています。

(本館・館内奉仕係 田中)



いちおしライブラリー 第15回 現代美術を楽しもう

美術館で作品を見ながら、「何を表現しようとしているのか、まったく分からない」「これは芸術なの?」と、こんな風に思ったことはないでしょうか。

ルノワールやゴッホといった印象派、後期印象派の絵画が、日本人にとっても人気があることはよく知られていますが、絵画や彫刻だけでなく様々な表現方法を用いた現代美術は、その理解し難さから、あまり人気がないようです。

しかし、最近の現代美術館の成功や日本人アーティストたちの活躍の報道などを見ていると、同時代に生きるアーティストたちが作り出す作品を、リアルタイムで楽しまないことはとても惜しいことだと思います。

今回は、現代美術の世界を気軽に楽しめる本を紹介します。

《現代美術ってなんだろう?》



『現代アート入門の入門』

山口 裕美 / 著

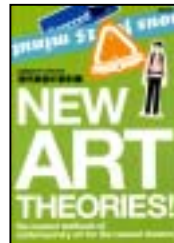
光文社 2002

現代美術とは何を指すのか。本書によると、伝統的芸術（肖像画や風景画など）権威的芸術（工芸など）以外のすべての芸術を現代美術としています。

この本は、作品を鑑賞するときのポイントや、著者おすすめの国内外のアーティストを紹介しています。

著者は若手アーティストを支援する活動を積極的に行っており、その視点から日本の現代美術界の発展の妨げとなっている問題点をとりあげるなど、日本の現代美術の動向も知ることができます。

《作品を見る》



『現代美術の教科書』

美術手帖編集部 / 編

美術出版社 2005

本書では、現代美術鑑賞術の入門として、実際に作品の前に立ったときに何を見て何を語るのか、鑑賞のシミュレーションを提示しています。

6つの傑作を用いて対話形式で鑑賞のポイントや作品のコンセプトを伝えてくれ、作家がなぜその手法をとり、何を表現しようとしているかを知ることができます。

また、11のテーマで20世紀の名作と現在の傑作をつなげ、近代から現代への美術の流れを紐解きます。



『アート・ナウ - 137人の

アーティスト 新世紀の星』

ユタ・グロズニックほか / 著

タッシェン・ジャパン 2003

今世紀に入り台頭してきた137人の注目すべき若いアーティストの経歴や作品と解説のほか、用語解説がついています。

豊富なカラー図版でたっぴりと現代美術を楽しむことができます。表現方法の多様さには、驚かされます。

《現代美術館の裏舞台》



『超・美術館革命
金沢 21 世紀美術館の挑戦』
袁 豊 / 著
角川書店 2007

金沢市にあるこの美術館は、一般的になじみの薄い現代美術を扱いながら、開館以来入館者数が年間 100 万人を越え、いつも子どもの声が絶えない賑やかな美術館となっています。

著者は、金沢 21 世紀美術館の特任館長であり、開館準備から携わりアメリカ仕込みの経営哲学をもって現在の成功に導きました。

誰でも気軽に立ち寄ることができるように無料スペースを設けたり、商店街を巻き込む企画など、集客のために様々なアイデアが盛り込まれていることがよくわかります。「経済が文化を支えるのではなく、文化が街を作り文化が経済を作る」という言葉が印象的です。

普段、知ることができない、美術館運営の裏舞台が覗けます。

《アーティストのいま》



『芸術起業論』
村上 隆 / 著
幻冬舎 2006

著者は、日本で最も活躍している現代美術アーティストの一人です。日本のアニメなどをベースにしたポップな作品は海外で高い評価を得ており、その作品はオークションで、高額落札されるほどです。

先に紹介した本の中で芸術とお金の関係や日本の美術界の問題点について袁氏と対談していますが、本書はそれらをテーマにさらに深く掘り下げたものとなっています。

なぜ、売れるアーティストになったのか、自身が行

ってきた海外の美術市場で通じるマーケティング方法や、その必要性を語ります。

今年 7 月に、著者が立山町の鋳造工場に立体作品の制作依頼をしたという、新聞報道がありました。日本の工芸技術を生かして制作されたこの作品は、アメリカをはじめ世界各地で開かれる個展で公開される予定です。

作家の動向を楽しむことができるのは、現代美術のおもしろさの一つだと思います。

《鑑賞に役立つ美術の知識》



『ちょっと知りたい
美術の常識』
梅宮 典子ほか / 著
美術出版社 2005

美術鑑賞は、ちょっとした知識があることで、もっと深く楽しめると思います。

本書は、現代美術に限らず、美術全般の知識を楽しく身につけられるようクイズ形式になっています。また、美術と切り離せない建築や写真についても学ぶことができます。回答には、解説がついており、さらに詳しく知りたい人のために参考図書の紹介もあります。

今回紹介した本の中にも度々出てくる、マルセル・デュシャンやアンディ・ウォーホルといった現代美術に大きな影響を残したアーティストの作品は、県内の美術館でも見るすることができます。

美術館に足を運んで実際に作品に触れた後に、本でその余韻を楽しむというのはいかがでしょうか。自分だけでは発見できなかった、いろいろな楽しみ方が見つかると思います。

(本館・青少年図書室 瀬口)

岩倉政治文庫の資料 1



<『唯物論研究』復刻版>

富山県出身の作家、岩倉政治氏の旧蔵書・原稿等は、富山市立図書館に寄贈され、現在「岩倉政治文庫」開設に向けて、整理を進めているところです。

本号から岩倉政治の旧蔵資料を、その生涯をたどりながら紹介します。(なお、文中の故人は敬称を略します。)

岩倉政治は、明治36年3月4日、富山県東砺波郡高瀬村(現在の南砺市高瀬)に生まれました。父は恒次郎、母はせん。生家は農家で、十人兄弟の末っ子です。後年の作品にも、たびたび登場しますが、当時の農村生活はたいへんに厳しいもので、暮らし向きは決して裕福ではなかったようです。経済不況のあおりを受けて、苦しい生活を強られるなかで、日々の生業に精を出し、懸命に生きぬこうとする人々の姿は、岩倉にとっての原風景であり、文学の出発点になったといえるでしょう。

県立福野農学校卒業後、東京・大阪でいくつかの職業を経験したのち、大正15年、大谷大学哲学科に入学します。ここで岩倉の人生に、大きな影響をおよぼす出来事がありました。教授であった鈴木大拙、戸坂潤との出会いです。

同じ北陸・石川県出身の鈴木大拙からは、仏教研究の基本を教わりました。禅研究の泰斗であった大拙とは、互いに仏教を追究する者として深く共鳴し、その後も大拙が昭和41年に亡くなるまで、長く交流を続けました。

また戸坂潤は、当時新進気鋭の若手哲学者で、年も近かったことから(戸坂は明治33年生まれ)師弟の

間柄とはいえ、おおいに意気投合しました。

西田幾多郎の門下を経て、マルクス主義に傾倒していった戸坂は、昭和7年に「唯物論研究会」を創立し、同年、大谷大学を卒業した岩倉もここに参加することになります。なお、在学中に岩倉は、「母を焼く」など、いくつかの短い習作を同人雑誌に発表しており、このときの貴重な掲載誌が残されています。

「唯物論研究会」は、戸坂のほか、岡邦雄、三枝博音らを中心としており、当初は「自然科学、社会科学及び哲学に於ける唯物論」を広く研究することを目的とした「学術団体」として、政治思想とは一線を画する存在でした。しかし、反ファシズム的立場をとったこともあって、しだいに官憲による弾圧を受けるようになり、昭和13年には解散を余儀なくされています。

およそ5年間にわたる活動期間中、機関誌として『唯物論研究』を発行しており、岩倉をはじめ、多くの若手研究家が論文を執筆しています。しかし、官憲の目を逃れるためもあったのか、岡邦雄が「上沢次郎」、三枝博音が「戸弘柯三」など、執筆者名の多くに、ペンネームが用いられていました。

『唯物論研究』は、昭和47年から昭和50年にかけて、青木書店より復刻版が刊行されており、岩倉も所蔵していました。これには、岩倉自らによる書き入れがあり、「巖木勝」「木村勝次」「風荘一郎」「地蔵前喬一」が岩倉氏のペンネームであったことがわかります。これらの論文からは、唯物論的立場から宗教の本質にせまろうとする、若き岩倉の思索のあとを、うかがい知ることができます。(本館・参考図書室 舟山)

レファレンスあれこれ

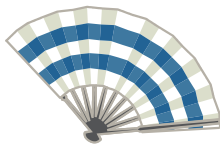
Q・戦前、富山にあったという芝居の劇場「新富座」が、どの場所にあったか知りたい。

A・富山は昔から、芝居の人気が高いところである。江戸時代の越中浄瑠璃や歌舞伎から、明治時代の新劇、昭和時代の映画にいたるまで、さまざまな民衆娯楽が、常に暮らしとともにあった。

さて、『富山市史・通史』（富山市 1987）『富山大百科事典』（北日本新聞社 1994）をみると、明治23年、餌指町の中教院前（現在の堤町通り二丁目あたり）に「新富座」が建てられた、という記事がある。惜しくも昭和20年8月の空襲で焼失してしまったが、芝居好きの富山人に愛され、大いに賑わったようで、大正4年、同所で公演をおこなう、初代中村吉右衛門の写真が残されている。

『鮎川の記憶』（桂書房 2004）には、八尾正治氏執筆の「鮎川芝居色彩図」という一章があり、「新富座」をはじめ、いたち川流域にあった劇場7軒を詳細に紹介してある。ここには八尾氏の作図になる「新富座の位置見取り図」が掲載されており、現在の中教院前交差点と、堤町通り交差点の間にあったことがわかる。同地周辺は他にも、清水座、大正座、演舞館など、多くの劇場・芝居小屋が軒を並べ、富山の演劇の中心地として、活況を呈していたようである。

『富山柳町のれきし』（柳町郷土史刊行委員会 1996）や『明治の富山をさぐる』（水間直二 1979）などでも、当時の状況をうかがうことができる。



Q・江戸時代の時刻は、日の出・日の入りを基準に等分して時間を決めていたので、夏と冬では一刻の時間が違ってほしい。このことについて詳しく知りたい。

A・『ビジュアル・ワイド江戸時代館』（小学館 2002）を見ると、「明治6年（1873）の時刻改正以前は日の出と日の入りを境に昼夜を区別し、それぞれを六等分する方法が主流であった。これを不定時法という。」とある。この方法によると、昼の長い夏至では、昼一刻の実質時間も長い、昼の短い冬至では、昼一刻の実質時間がそれより短くなる、という現象が起きる。現在の時間に換算すると、冬至の昼一刻は、夏至の昼一刻より、およそ50分も短い。

さらに、昼と夜の長さが同じである春分・秋分の日も、一日を通して、一刻の長さが均等であるが、夏至は夜より昼のほうが長いため、夜の一刻は短く、昼の一刻はそれより長い、という現象も起きる。夜が明けると、とたんに一刻が長くなってしまいうけである。逆に冬至になると、夜の一刻は長く、昼の一刻は短い。

ほかに『暦の百科事典』（本の友社 1999）には、この不定時法を含め、古今東西の時刻法や暦法に関する情報が、詳しく紹介されており、参考になる。

（本館・参考図書室 舟山）

平成19年10月23日 富山市立図書館 編集・発行
HPアドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>

富山市丸の内1丁目4-50 TEL076-432-7272
E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp